

第28回中学生広場

# 私の思い2025

## 守山大会の記録

令和7年7月12日開催





受付風景



開会式



意見発表



# 私の思い 2025

## 大会風景

### 中学生審査特別賞発表・表彰



### 教育長講評



### 表彰



### 守山北中学校活動発表

「誰もが楽しく通える北中にするために」



### 立命館守山中学校・高等学校 中学の部活動発表

「波乱と革命の一年」



# もくじ

はじめに .....	1
意見発表	
<b>【中学校名】</b> <b>【学年】</b> <b>【名 前】</b> (発表順に掲載)	
立命館守山中学校    2年    木原 彩絵    無駄な時間は無駄じゃない .....	2
県立守山中学校      2年    浦山莉理子    思いや考えを伝えるときに .....	3
明富中学校          2年    高岡 希心    ばあちゃんとの握手 .....	4
守山北中学校        2年    當川 陽哉    私が抱いた不満と決意 .....	5
守山南中学校        2年    宮本柚之介    伝統を受け継ぐ .....	6
市立守山中学校      2年    足立 涼      当たり前じゃない幸せ .....	7
立命館守山中学校    1年    上田 結翔    おじいちゃんの三つの教え .....	8
県立守山中学校      1年    高谷 美穂    日本の農業をより良くするには .....	9
明富中学校          1年    越智 聖那    一番最初の贈り物 .....	10
守山北中学校        1年    小和田紗希    情報を正しく扱うには .....	11
守山南中学校        1年    原井 創梧    なぜぼくらは勉強するのか .....	12
市立守山中学校      1年    大藪 一花    世界が平和でありつづけるために .....	13
立命館守山中学校    3年    山田 捺琴    ちぐはぐな世界で .....	14
県立守山中学校      3年    大森 結芽    きょうだい児である私の思い .....	15
明富中学校          3年    瀬川凜太郎    人生はゲーム .....	16
守山北中学校        3年    三舛 琉有    ハンカチ .....	17
守山南中学校        3年    小林 倅人    私に影響を与えてくれた人 .....	18
市立守山中学校      3年    植木 帆稀    三角座りについて .....	19
講 評 .....	20
審査員・審査基準 .....	21
中学生広場実行委員 .....	22
中学生広場実行感想 .....	23
アンケート結果 .....	24
作文募集要項 .....	26

# はじめに

第28回中学生広場「私の思い2025」守山大会が、令和7年7月12日(土)守山市民ホールで開催されました。大会運営に携わっていただいた中学生広場実行委員をはじめ、開催にあたりご支援ご協力をいただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

この大会は、中学生が自分の夢や希望、学校や家庭・社会に対してどのような思いや願いを持っているのかなどを発表するものです。発表される中学生の純粋な考えや思いを、家庭や教育関係者、地域の大人がしっかりと受け止めて、中学生への理解を深め、健全な成長を支える機会になるように取り組んでいます。

今年度は市内の中学校6校より、およそ3,514名の生徒が自分の思いや考えを文章につづり、学級や学校、またこの大会において、将来の夢や希望、社会への提言など語り、聞き合うことによってお互いの思いの理解を深められる発表となりました。

意見発表では、各学校の学年代表者計18名から自分の生き方や夢、命の大切さ、経験による考え、弱者の立場に立ってなど、現代の社会に目を向けている中学生の率直な思いを聞かせていただき、とても頼もしく感じたと同時に、考えさせられる機会となりました。

活動発表においては、守山北中学校の「誰もが楽しく通える北中にするために」と立命館守山中学校・高等学校の中学の部から「波乱と革命の一年」と題して、生徒会活動や学校での様子を交えて学校紹介をしていただきました。

この記録集は、18名の意見発表作文と中学生実行委員たちの取り組みや当日の活動内容などをまとめたものです。一人でも多くの方にお読みいただき、中学生に対する理解を深めていただくとともに、熱い思いを受け取っていただければと思います。

運営にあたっては中学生広場実行委員の皆さんが力を合わせて取り組んでいただきました。

当市民会議では、これからも「地域の子どもは、地域で育てる」を合言葉に青少年が心身ともに健やかに育っていける社会環境づくりを図ってまいります。今後とも市民の皆さまのご支援をよろしく願いいたします。

最後になりましたが、本大会の開催にあたりご協力いただきました市内各中学校・高等学校の皆さん、ご指導いただきました先生方、物心両面で支えていただきました近江守山ライオンズクラブ様、守山市PTA連絡協議会の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和7年12月

守山市青少年育成市民会議

会 長 山 本 繁 二



# 『無駄な時間は無駄じゃない』



立命館守山中学校 2年

木原 彩絵

みなさんは何も考えずただぼーっとする時間を過ごしたことはないでしょうか。動かず、声も出さず、何も考えない無の状態。気付けばあっという間に時間が経ち、時間を無駄にしてしまったと感じた経験が多いと思います。みなさんも授業中、寝る前、勉強中、お風呂など色々な場面で一日に一回はこの時間を過ごしているのではないのでしょうか。ですが、大人たちからは「ぼーっとするな」「一秒一秒を大切にしろ」とたくさん言われてきましたよね。私たちは普段この時間を無駄な時間として捉えています。そして、「無駄な時間」は悪いものとして認識し、過ごした後に罪悪感を覚えてしまいます。しかし、私は「無駄な時間」と言っているぼーっとする時間は人生を楽しく生きるためにはむしろ大切な時間なのではないのかと考えています。

そこで私はぼーっとする時間は本当に悪い時間なのか調べてみることにしました。ぼーっとする時間は脳のデフォルトモードネットワーク DMN が活性化され、新しいアイデアのひらめきや、創造性を高めるとも重要な時間となるそうです。例えば美術の時間。何かアイデアを出して制作してくださいと課題が出されますよね。私たちはその際、何かいいデザインはないだろうか、と必死に考えます。しかし、考えようとすればするほどアイデアは生まれなばかり。ですが、アイデアを出そうとなんて考えていない、ぼーっとしている時間に急にアイデアが降りてくる。こんな体験をしたことはないでしょうか。何もしない時間を設けることで、普段とは違う物事を考える余裕が生まれ、思考の柔軟性が高まります。また、この時間では脳がリラックスセロトニンという幸せホルモンが分泌されストレス軽減の

効果が期待できます。ぼーっとしている時の謎の幸福感の原因はここにあったんですね。さらにぼーっとする時間で活性化する DMN には短期記憶を長期記憶に変換する役割も担っており、ぼーっとしている時間は記憶の整理に役立ちます。時間が貴重で勉強に取り組まなければいけないテスト期間こそこのような時間を取り入れてみることで休息にもなり、結果にもつながるのではないかと思います。

私もぼーっとする時間に最初はすごく罪悪感を感じていました。ですが、最近は一日に数分、積極的に取り入れるようにしています。例えば寝る前、私はなかなか寝付けない体質なのですが一度起き上がり、ぼーっと一点を見つめているとだんだんと眠くなりすぐに眠りに落ちれるという経験がよくあります。また、ぼーっとする時間を多くとった期間のほうが落ち着いて行動でき、課題や勉強が効率よく進行できるということに気がきました。先ほど話した効果がしっかりと表われていますよね。

毎日学校だけでも忙しく過ごし、一日の中でたくさんの情報を得る私たちの生活にはこのぼーっとする時間、一息する時間が必要不可欠です。一見、無駄な時間に見えるからと悪い時間と捉えるのではなく、この時間は脳を休ませ、落ち着きを取り戻し、整理する、大事な大事な時間なのです。いわゆる、「無駄な時間」は無駄じゃないのです。大人になればさらに忙しくなる現代社会で、子供である今のうちから楽しく、有意義な人生を過ごすため、無駄ではない、むしろ大切なぼーっとする時間を積極的に取り入れていきましょう。



# 『思いや考えを伝えるときに』



県立守山中学校 2年

浦山 莉理子

みなさんは手紙を書くことがありますか？また、どんなことを思って書きますか。私は数年前から、遠方に住む大伯父と大伯母にあてて、数か月に一回ほどの頻度で手紙を書いています。大伯父と大伯母には、コロナ禍により、直接会うことがほとんどできなくなってしまいました。元気で過ごしているか心配で、どう連絡を取ればよいか迷っていると、母や祖母が手紙を書くことをすすめてくれました。早速、近況や、今考えていることを文字にしなが、どんな返信が来るか楽しみにして手紙を書きました。すると、二人からの返信には、今どう過ごしているかが書かれていました。そして、妹と仲良くね、体を大事にしてね、とも添えられていました。

二人との手紙のやりとりを通して、私は実際に体験したことそのままを文字に起こすのは難しいため、丁寧に書くことが大切だということや、伝えたいと思う気持ちが大切だということに気づきました。丁寧に、体験したことや自分の思いを伝えるには言葉を選んで使う必要があるため、時間がかかります。しかし、この時間こそが伝えたいと思う気持ちであり、この時間や気持ちを大切にすることで自分の思いが伝わったり、返信がきたときにあたたかい気持ちになったりすると思います。

同じように言葉を用いたコミュニケーションでも、私は人と会話することが少し苦手です。文字にして表すときにはうまく形にできる自分の考えや思いが、話しているときにはうまくまとまらないように感じるからです。考えや思いをまとめるのに時間がかかったり、自分の考えが正しかったか不安になって、頭の中で何回も確認してしまったりします。伝えたい思い、わかってほしい思いは言葉が一番よく表れると思います。だからこそ、言葉遣いについてはよく考えて、慎重になってしまいます。手紙など、文字で思いを表すときには、相手の状況が

分からなかったり、身振り手振りで示すことができなったりというデメリットがありますが、その分、相手を想った適切な言葉遣いに気を付けることができます。それに対し、声で表すときは、その場でいろいろな情報を付け足すことができるというメリットがありますが、突発的に不適切な言葉遣いをしてしまうという点や、言葉選びを間違えてしまうという点もあると思います。

普段の自分の言葉遣いを振り返ってみてください。感情的になって、無意識に過激な言葉を発していませんか。相手を想って手紙を書くときには絶対に使わないような口調になっていませんか。心当たりがあるのなら、自分の考えや思いがどんな言葉なら伝わるか考えてみてください。もし感情的になって過激な言葉を発しそうになってしまっても、この心がけがあれば自分の考えや思いをしっかりと伝えられると思います。

言葉は、自分の考えや思いを伝えるために欠かせないものだと思います。そして、よくも悪くも人を動かすものだと思います。ある人の言葉がきっかけで、何かを成し遂げたり、喜びを感じたりすることがある一方で、無意識に発せられたささいな言葉でもわだかまりが残ったり、怖く感じたりして人を傷つけることがあります。

これから、いろいろな人と自分の考えや思いを交流していくと思います。その中で、私は、自分の考えや思いを伝えるために大切な言葉選びや言葉遣いを忘れず、ずっと大切にできる人でありたいです。文字で表すときも、声で表すときも、大伯父と大伯母からもらったあたたかい気持ちを、誰かにつなげられる人でありたいと思います。







# 『伝統を受け継ぐ』



守山南中学校 2年

## 宮本 柚之介

「オイサー、オイサー、オイサー、オイサー、オイサー、オイサー」

松明組のかけ声が町内に鳴り響く。鎌倉時代から約八百年続く、近江の奇祭、「勝部の火祭り」だ。毎年、一月の第二土曜日に勝部神社で開催される。

私は小学校1年生の頃に、お稚児さんと春祭りに参加して、松明祭のことを知った。入ったきっかけは、家に提灯持ちの案内が来たことだった。はじめは、特に何も考えずに参加した提灯持ちだったが、本祭で松明組の人たちが太鼓を運んでいる様子や、大蛇のように燃え盛る炎を目のあたりにすると、圧倒され、さらに興味を持った。そして、私もこの歴史ある祭りに関わりたいと思い入団を決めた。

いざ、松明組に入ると、驚くことがたくさんあった。私が提灯持ちのころは本祭の前夜にある清め式と、本祭しか参加していなかったから、準備にとても時間がかかることを全く知らなかった。例えば、火を燃やすときに使う菜種は三月に種をまき、夏に干して、一年間かけて用意する。それと一緒にあわせる木や、竹は金勝の山に切り出しに行く。大蛇に見立てた松明は、重さ四百キログラム、長さは6メートルにもなる。そのため、たくさんの人の力と時間が必要なのだ。

このような準備を経て、いよいよ松明祭に入る。まずは団にわかれて太鼓を担ぎ、「オイサーオイサー」と叫びながら、町内を練り歩く。2, 3時間ほどたつと、すべての団が勝部神社に集まり、そこで二十歳になる組員が十二基の巨大な松明に火を灯す。太鼓と鐘が打ち鳴らされる中、ふんどし姿の若者たちが、無病息災を祈る「ごうよ」、「ひょうよ」の掛け声とともに、走り回る。その迫力はとてつもないもので、私もみんなと火の粉が激しく舞う中を、掛け声がなんなのかわからなくなるくらいに叫び、かけまわった。

伝統あるこの祭りは地域や、多くの人の支えによって成り立っている。しかし、近年は担い手が減ってきており、伝統の継承が難しくなっている。もともと勝部地区の人しか入ることのできなかった松明組だったが、梅田地区の人や、市外、県外から参加する人も増えてきた。また、勝部地域にもたくさんさんの菜種畑があったので、神社の近くで菜種を栽培できたが、近年の宅地開発による畑の減少から、最近ではピエリの近くまで行って菜種を栽培している。

私は担い手が減ってきているのは、松明組の具体的な活動などを知らない人が多いため、八百年続く勝部の伝統を継承したい、受け継いでいきたいという人が少なくなっているからだ考える。

私が入るきっかけとなった春祭りのお稚児さんや火祭りの提灯持ちも参加する人が年々少なくなっているそうだが、参加しても松明組に継続して入る人はさらに少ない。

松明組は年代の幅がとても広く十三歳から三十四歳まで入ることができる。これほど広い年代の人たちとかわることができるのは地域に根ざした伝統行事だからなのではないだろうか。

祭りに参加してみて、知ったことがたくさんあった。地域の人たちの支えがあって、この祭りは八百年間続いている。伝統ある祭りのある地域の一人として、責任をもち、伝統を継承していきたい。私は提灯持ちに参加してくれた小学生に積極的に松明組の具体的な活動などを話していたり、この作文を聞いたり読んだりして、まだ松明組のことを知らない同年代の人たちに松明組のことを少しでも知ってもらいたい。そして一緒に活動していきたい。

待っているだけでは機会は与えてもらえない。先輩方が守って来られたこの祭りを今度は自分の手でつないでいきたい。



# 『当たり前じゃない幸せ』



市立守山中学校 2年

足立 涼

私は、母においしいご飯を作ってもらい、それを食べながら、家族でバラエティー番組を見て笑い合う毎日が本当に幸せだと思っています。そして、そんな日々が当たり前だと思っていました。けれど、あるニュースをきっかけに、その「当たり前」は実はとても貴重で、なくてはならないものだと思われました。

それは、中学1年生の3月のことでした。朝食を食べている時に、ふとテレビをつけると「子どもへの虐待、令和5年度は22万5500件、過去最多に」という一文が流れてきました。児童相談所が対応した子どもへの虐待の件数は前の年度より1万件あまり多くこれまでの集計では過去最多となったことがわかった。という内容でした。そのテレビと一緒に見ていた父はそのニュースをみたときに、「こういう虐待はなくなるね。悲しいな。りょうくんたちは今の家族に生まれて良かったな」と言っていました。私もある程度、虐待はダメなこと、悲しいことだと知っていたので、父と同じ思いでした。

朝食を食べ終わり、学校へ行くまで少し時間があつたので、このニュースについてもう少し詳しく調べてみることにしました。すると、虐待を受けている児童生徒は約82人に1人とわかりました。意外と少ない数なんだと最初私は思いました。なぜなら、「今は2人に1人ががんになる時代」と聞いたことがあって、その人数と比べたからです。けれど、実際に82人に1人ということは、計算上は中学校の3クラスに1人か2人はいるということになります。そう考えると、とても悲しい思いをしている人が近くにいてもかもしれないということで、思っているよりも身近な問題だと気づきました。その中の一人でもそういう状況でなくなってほしいと思い、何をしたら良いか私なりに考えてみることにしました。インターネットで調べてみると、虐待をする

理由には、1. 親のストレス・精神的問題。2. 親自身が虐待を受けて育った。3. 育児や子どもの発達に対する理解不足。4. しつけと虐待の区別ができていない。5. 社会的孤立・支援の不足。6. 家庭内のトラブルなど、という記事を見つけました。多くの原因が考えられるのです。

この中で私が今関われる改善策はあるのでしょうか。子どもである私が他の家族の問題に積極的に口を出すことは、かなり難しいですが、できることの一つは友達の変化に気づけるようになることです。私は、親しい友達であれば変化に気づけると思いますが、だから、そのような友達をコミュニケーションで増やしていけば良いと思います。

では社会はどうなるべきでしょうか。今の令和の時代は、そもそも人との直接的なコミュニケーションがどんどん少なくなっているのです、ここをどう変えていけばよいのか、私も答えは出ていません。今は、暮らしが豊かになってきて、便利なものもたくさんあって、でも「人」という漢字の成り立ちのように、ひとりの「人」がもう一人の「人」を支えている、この本来の意味をもっと考えていくべきだと思います。例えば、悩みを共有できる複数の家族がつながる社会の仕組みを作ることで、一人で悩まずに助けを求めることもできます。身近な自治会の活動を工夫することでも、家族同士の関係が深まるかもしれません。

今、この社会には、虐待などで幸せでない家族がいます。そのような人たちの気軽に相談してもらえ、仲間に私はなりたいたいし、社会がそうあってほしいと思います。私が将来親になったときは、子どもに幸せだと思ってもらえるように愛情をそそいでいきたいです。そして、今のこの幸せな暮らしをかみしめて生きていきたいです。





# 『日本の農業をより良くするには』



県立守山中学校 1年

高谷美穂

「今日はお手伝い、ありがとうね。」

ある五月の日曜日、私は祖父母の家へお手伝いをしに行きました。私の祖父母は農家です。今の時期はなすやトマト、スナップエンドウなど、様々な野菜を栽培しています。この日は、私の大好物であるスナップエンドウの収穫をお手伝いしに行きました。

この日の仕事内容は、祖母と畑へ行ってスナップエンドウを収穫し、祖母の家に帰ってから袋詰めをすることでした。「なんだ、簡単そう。」と初めは思っていました。初心者の私には上手いできないことがたくさんありました。

まず一つ目は、収穫できるサイズのスナップエンドウかどうか、見極めることです。収穫しても良いのは、ある程度成長して大きくなったスナップエンドウだけだと、祖母は言いました。小さいスナップエンドウは、時間がたつと大きくなるので、それまでは待つ必要があります。収穫できるサイズかどうか見極めるのが意外に難しく、「農家さんはこんなに細かいところまで集中して作業していたんだ。」とおどろきました。

二つ目は、販売してもよいスナップエンドウかどうか、判断することです。祖父母が作る野菜は、地元の「おうみんち」というお店の店頭に並びます。お客さんに買ってもらうスナップエンドウに、傷や汚れがあってははいけません。傷がついていないか、虫に食べられていないかなど、様々なポイントから販売できるかどうかを見極めます。もちろん、一つ一つです。この作業には長い時間がかかるので、集中力を保つのが大変でした。

最後の袋詰めでは、よりきれいに見える袋の詰め方など、細かいところまで教わりました。きれいに袋に詰めたら、量りで重さを量ります。祖母のスナップエンドウは、240グラムで200円です。ぴった

りにならないときは、240グラムよりも少し多めに入れます。きれいに袋に詰めるのが難しかったけれど、自分が心をこめて詰めたスナップエンドウを誰かが手に取ってくれるところを想像すると、自然とうれしくなりました。

お手伝いを終えて帰るときになると、お手伝いをする前よりも温かい気持ちになっていました。

今、日本の農業は大きな問題を抱えています。後継者不足です。今、日本で農業をしている人の約7割が65歳以上だと言われています。若者が農業を仕事として選ばない理由の多くは、農業に対して良いイメージを持っていないからだだと思います。大変そう、危険そう、面白くなさそうなどといった印象を持つ人も多いのではないのでしょうか。私も、祖父母の家へお手伝いに行くまではそう思っていました。

しかし、実際に祖父母の家へお手伝いに行ってみると、考えは変わりました。確かに、農業は大変です。暑い日も寒い日も外で働かなくてはならないし、どろで汚れることもあります。祖父母に聞いたところ、せっかく真心込めて作っても、台風によって今まで作ってきたものが全て売れなくなってしまったこともあるそうです。私の祖父母は、そういった大変なことがあっても、自分たちで作った野菜でお客さんに喜んでもらうことをやりがいに感じて、農業をしていると言っていました。この話を実際に聞いて、私は、祖父母に尊敬の念を抱きました。

農業は、人の喜びや笑顔が深く関わった、すばらしい職業です。もしよければ、実際に農業を体験してみてください。実際にやってみないと分からないこともあります。皆さんが知らない農業の魅力に、出会えるかもしれません。日本の農業をより良くするには、私達子どもが意識を変えていくことが必要です。





# 『情報を正しく扱うには』



守山北中学校 1年

小和田 紗希

もし、あなたの友達が確証のないうわさを流されていたら、あなたはどうしますか？ 否定する？ 本人に聞いてみる？ そのうわさを鵜呑みにして、他の人に伝える？ 情報は、よく考えて扱わないと相手を傷つけてしまう可能性があります。あなたはよく考えて情報を扱うことができますか？ 私は、情報を扱うとき、どんなことに気をつけたらよいのかを、今一度考えてみたいと思います。

ある芸能人が問題を起こし、インターネットではみんながその人をブーイング。しかしその情報はデマだと分かり、みんなは手のひらを返した。私はこのことを聞いたとき、ものすごく腹が立ちました。匿名なのをいいことにその人を罵ることもですが、何よりも本当かどうかあやしい情報を鵜呑みにして、人を傷つけていることが許せませんでした。だから私は、インターネットで情報を発信できるようになっても、正しいかどうか分からない情報を鵜呑みにせず、本当かどうかをちゃんと見極めることが大切であると思いました。

これまでインターネット上の話をしていましたが、自分がいつでも自由に使えるインターネット端末をまだ持っていない人もいるでしょう。しかし、インターネット上でなくても情報の扱いには気をつけなければいけません。初めにみなさんに聞いた、あなたの友達が確証もないうわさを流されていたら？ という質問、実は私に実際あったことなんです。私はうわさを流されている側でした。そのとき、ある一人の友達がキッパリと否定してくれたんです。そこからは流されていたうわさについて何かを聞くことや、私をそのことで悪く言う人はいなくなりました。友達が否定してくれたことを知ったの

はその後でした。だから否定してくれた時、友達のそばにはいなかったけれど、うわさに惑わされずに、キッパリと否定してくれたことが何よりもうれしかったです。私は、もし友達が事実無根のうわさを流されていても、うわさを否定してくれた友達を見習って行動しよう、と強く心に誓いました。

このように、インターネット上や現実世界に関係なく、情報を扱う際は気をつけなければならないことがたくさんあります。その中でも、私がみなさんにしてほしいことは、情報を見極めようとする、そして無意識のうちに確証のない情報を広めないようにすることです。話しているだけでもうわさは広がっていくことがあるし、広がっていくにつれ、どんどん事実からかけはなれていってしまいます。

友達との会話、新聞やテレビのニュース、インターネットなど、今、この世の中には情報を得る手段がたくさんあります。しかし、世の中にあふれている情報は、はたして全てを信じてよいのでしょうか。決して疑心暗鬼になる必要はありません。ただ、少しでも情報を見極めようとする意識を持つてほしいです。うわさを友達に話したただけなのに。インターネットでちょっとしたことを書いただけなのに。そうやって誤った情報や偏見が広まっていくことで、誰かを傷つけてしまうかもしれません。だからこそ、その情報が正しいかどうかをしっかりと見極め、慎重に扱うことが大切だと考えます。情報を正しく扱える人であふれ、情報によって傷つく人がいない世の中になりますように。





# 『世界が平和でありつづけるために』



市立守山中学校 1年

大 藪 一 花

私は春休みに、八十年以上前に起こった、日本の負の歴史である戦争のことと、今私たちが暮らしているこの環境のことへの関係について気になり、鹿児島県へ研修をしに行きました。その研修で感じたこと、実際に見て分かったことへの私の思いについて紹介します。

まず、鹿児島の知覧町にある、知覧特攻平和会館に行きました。知覧特攻平和会館には戦争の中でも特攻という攻撃で亡くなってしまった人たちその名も特別攻撃隊の人たちの顔写真や、その当時着ていた服、愛用していた文ぼう具、特攻をする前の素直な気持ちをそのまま紙に書きとめたり、今まで自分を育ててくれた親や、家族へ向けた、手紙、遺書などがたくさん飾られていました。この中でも特に印象に残っていることが二つあるので二つ紹介します。

一つ目は、亡くなってしまった人たちの顔写真についてです。顔写真を見てみると、みんな、とてもいきいきしていて、朗らかな笑顔をしていました。さらにその人たちの説明のらんには、今の高校生と世代の変わらない十九才の方も亡くなってしまったと書かれており、私はすごく衝撃を受けました。

約八十年前の日本で私と年齢や世代がそんなに変わらない若者たちがお国のために自ら特攻を決意し、命を落としていってしまったという事実があったことを知りました。

今の私は、友達と遊んだり、買い物に出かけたり、家族と話して笑い合ったりする日常を当たり前のよう過ごしています。しかし、戦時中の日本は、食べ物もなく、空襲によって多くの人が炎に閉じこめられて、大きなケガをおったり、亡くなったり、毎

日を生きて、毎日生き抜くことだけで精一杯の時代だったことを知りました。

さらに、戦争の中でも特攻隊の人達だけでも命を落とされた人々は数多くいます。それにも関わらずよく会話の中で「死」という言葉を使ってしまうことがあります。今の時代は人が死んでしまう所を実際に自分の目でみたことがない人が多く、軽い気持ちで、「死」という言葉を扱ってしまいます。例えば「暑くて死にそう」や「笑い過ぎて死ぬ」など冗談で死という言葉を使ってしまったり、言われたりしたこともあります。しかし、この研修をおえて、どんなに腹が立ったり、冗談の度が過ぎてしまうことがあっても絶対に「死」という言葉を使わないと決めました。

二つ目は、遺書についてです。鹿児島県の研修では、遺書のことについても学びました。遺書には、「天皇陛下万歳」といった言葉が記されており、特攻をしに行くことへの、「死」を喜んで受け入れているのかのように感じられる内容もありました。私達と同じぐらいの年代の、若者達が、特攻をしに行き、死ぬという覚悟をもって、このような遺書を書いていたことを知り、とてもつらく、悲しく、やるせない気持ちになりました。

このように、私は鹿児島での研修を通して多くのことを知り、感じることができました。さらに、この経験を忘れず、戦争の悲惨さや、平和の尊さを語りついでいく、そして、将来は戦争のない、平和な世の中を築いていく、このことが、世界が平和でありつづけるために私達がしていかなければならないことだと私は思います。



# 『ちぐはぐな世界で』



立命館守山中学校 3年

山 田 捺 琴

世の中にはたくさんの矛盾が存在します。

私は14年間生きてきた中で、そうした矛盾にたびたび疑問を感じてきました。

例えば、疑問を持つこと。疑問を持ちなさいと言われる一方、質問をしすぎると『空気が読めない』と言われる。また、成績表には順位や偏差値が書かれていますが、テストの順位は関係ないとも言われます。個性は大事と言われながら、強すぎると『変わっている』『自己中心的だ』と批判されます。

「個性」と「周囲からの評価」の矛盾に、私自身も向き合ったことがあります。幼い頃友達に「あの子って自己中だよね。」と囁かれたことがありました。「自己中」という言葉を知らなかった私はそれを虫の名前だと思い込み、家に帰って図鑑で調べました。しかし載っていなかったので「きっと珍しい虫なんだ」と思っていたのです。やがて小学生になり「自己中」の本当の意味を知った時、私はショックを受けました。それ以来「個性的」という言葉や目立つ行動に疑問を持つようになっていったのです。

けれど、私の周りには先生方は私たちの個性を大切に、その良さを引き出してくださる方ばかりです。そんな先生方のおかげで、個性は嫌われるものではなく活かし方次第で誰かを笑顔にできる……そう気づきました。

このように個性を大切にすることは理想ですが、時に周囲との衝突を生むこともあります。

私は自分や友達だけでなく、他の人が感じる世の中の矛盾にも興味を湧き、お世話になっている習字教室でアンケートをとってみました。ポチッと押すと完了、といった簡単なものではなく「あなたが感じる世の中の矛盾について教えてください」と書いたものを壁に貼っただけだったのですが、多くの回答がありました。ここでは集まった意見の中から、印象的だった三つの意見を紹介します。

一つ目は、イベントの企画などでは自由な発想が

求められるのに、いざ提案すると「前例がないから」と却下されてしまうという意見です。挑戦には失敗のリスクがあるからこそ、避けられてしまうのかもしれない。

二つ目は、個性や自分らしさを大切にしようという風潮がある一方で、校則や目上の人の価値観に反すると非難される点です。

三つ目は「みんな仲良く平等に」が理想とされながらも、実際には見えないピラミッドのような階級が存在しているという指摘です。学校生活はまさに社会の縮図。そんな考え方が印象的でした。

とはいえ、このような矛盾は本当に悪いものなのでしょうか？校則は生徒が安全で快適に学校生活を送るためのマナーですし、誰もが自分勝手に生活していれば、学校は混乱してしまいます。順位や偏差値がないと自分がどこの段階にいるのかわかりません。それを目標に頑張れる人もいます。

この作文を書きながら、理不尽と思われている矛盾の中にも、なくなったら困るものがあるということに気づきました。そんな「ちぐはぐさ」こそ、人間らしさを作っているのかもしれない。

私たちの身の回りだけでなく世界にも矛盾は多く存在します。例えば、貧困を無くそうと言われる一方で富の偏りや飢えがあり、環境保護が叫ばれていても森林伐採や海のごみ問題は続きます。人権尊重が叫ばれていても差別や格差は残り、便利な技術の裏でSNS誹謗中傷や孤独の問題が深刻化しています。

世界はまるで継ぎ接ぎだらけの布のように、ちぐはぐです。でも、だからこそ私たちは目の前の矛盾に気づき、考え、向き合っていくことが大切なのではないでしょうか。変だと思ふ矛盾には疑問を持ち、素敵だと思える矛盾は大切に。そんな視点を忘れずに、矛盾と向き合える大人になりたいと思います。





# 『人生はゲーム』



明富中学校 3年

瀬川 凜太郎

私は、小さい頃から友達とゲームをしたり一人でレベルを上げて、ボスを倒したりするゲームが好きでした。ゲームをしていくにつれ、ゲームの自由さが人生の何でもできる自由さに似ていると考えようになりました。この考えから、私は人生というもの少し違った視点で考えるようになりました。今から人生をゲームに例えて説明します。きっと人生の面白さを伝えられると思います。

まず、このゲームは最初すべてがランダムになっています。顔、性別、生まれる場所、人種など普通のゲームでは変えられるところを変えることができません。ランダムで構成された自分の全てを精一杯愛することが大切です。自分自身のことを分かることでこのゲームはより楽しくなります。次にこのゲームは普通のゲームと同じでレベルもあります。自分の目に見えないだけで、知識、健康、人間関係、精神状態などあげると、きりが無いほどのレベルがあります。それらのレベルを上げていくとこのゲームはより豊かになり、より楽しくなります。ほかのプレイヤーと一緒に切磋琢磨してレベルを上げるのもいいし一人でコツコツとレベルを上げるのもいいと思います。しかし、このゲームのプレイヤーは最初から何かしらのレベルが上がっている場合があります。それをこのゲームでは、`才能、`と呼びます。もちろん、この才能もランダムですが、全プレイヤーに何かしらはあります。例えば、歌がとても上手な人は、歌の才能があるといえるし、足が速い人は俊足の才能があるといえます。もちろん、才能があるといっても百パーセントのレベルの内のほんの少ししか影響はないと思いますが、それでも多少は人より優れているはずで、まだ才能が見つかっていないプレイヤーも、いろいろなことを挑戦してみるうちに、才能を見つける近道が見つかるかもしれません。さらにこのゲームにはボス（敵）が出現します。私たちに今最も近いボスは`受験、`だと思います。このボスはどこの高校に行くのか決めない

限りは絶対に出てきません。さらにこのボスは自分の好きな時に、対戦できるのではなく定められた時間制限があります。だから早めに行きたい高校を決めて、ボスを出現させ、早めにレベルを上げ、余裕をもってボスを倒せるようにしておくことが大切です。つまり、受験勉強に早めに取り組むことが大切だということです。そして、このゲームの一番の醍醐味は自由で何でもできるということです。例えば、歌の才能があるなら努力を積み上げて歌手になれまじし、知識レベルをたくさんあげて裕福に暮らしたり、体力をつけたり、運動レベルを上げてスポーツ選手になり世界で活躍したりいろいろなことができます。しかしこのゲームは危険もたくさんあります。急に病気にかかり亡くなってしまったり、事故で亡くなったりします。しかし、このゲームはやり直すことはできないので楽しむと同時にいろんな危険に注意していくことが必要です。そしてこのゲームを自らやめてしまう人たちもいます。前年度は小・中・高校生529人が自殺し、この人生をやめたしまったそうです。そのほとんどの人がいじめなどの悩みが原因だと聞きました。私は重い刑がないかぎりいじめはなくならないと思っています。いじめる側には罪の意識が薄いからです。変えることのできる人は、いじめられている被害者です。私はそういう人に対して、もっと視野を広く見てほしいと思います。今の人間関係レベルが最悪なら思いきって別のワールドに行って、もう一度、一から人間関係を作り直したらいいのではないかと思います。そうすることで新しい世界が広がり人生がいかに神ゲー、つまり最高のゲームか分かると思います。

このように`人生、`をゲームと考えるといろいろな考え方が増え楽しくなっていきます。一度しかプレイできないこのゲームをみなさんはどうやって攻略していきますか？



# 『ハンカチ』



守山北中学校 3年

## 三 舛 琉 有

私は「ありがとう」という言葉が好きです。たった五文字で、人を元気づけて心を豊かにしてくれる言葉はこれ以上ないと思います。

私が小学生の頃、友達がハンカチをなくして困っていたことがありました。私は「一緒に探すよ。」と言い、探すのを手伝いました。昼休みには学校中、放課後には通学路を探しました。しかし見つかりませんでした。私も疲れていたので「また明日探そう。」と言いました。しかし友達は「私はもうちょっと探すよ。るあはもう帰るな。一緒に探してくれてありがとう。」と言い、また探しはじめました。私は一瞬、家に帰ろうとしましたが、なんだか放っておけないと思い、振りかえりました。すると友達が涙を流しながら、必死に探していました。私は友達のところに行き、「ごめん。やっぱり私も手伝うよ。」と言って、また一緒に探しはじめました。二十分ほどたつたころ、友達が「あった。」と言いました。私はすぐにかけよりました。道端の草むらの中に、ハンカチが落ちていました。私達は二人で大喜びしました。すると友達が、「小さいころのことだから忘れていると思うけれど、このハンカチは、るあがくれたんだよ。私にとって友達がくれた初めての誕生日プレゼントだったから、ものすごく困っていたんだ。一緒に探してくれてありがとう。」と、満面の笑顔で私に言いました。私は、友達が今までそのハンカチを大切に使用してくれたことに、嬉しさを感じました。それと同時に、「ありがとう。」と言われるだけで、こんなにも温かい気持ちになるのだと実感しました。

感謝の言葉「ありがとう」には、人を元気づけて温かい気持ちにさせる不思議な力があるのだと、私は思っています。実際に自分が、体験したように「ありがとう」はとても大切な言葉だと感じました。また、自分もたくさんの感謝の気持ちを、「ありがとう」という言葉で伝えていきたいです。

私は、生まれてから両親をはじめ、何百、何千人もの人にお世話になってきたのだと思います。そしてこれからもたくさんの人に、支えられて生きていくと思います。私には助けてもらったときに、恥ずかしくて友達や家族にも言わなかった、言えなかった「ありがとう」がたくさんあります。しかし「ありがとう」を、声に出して伝えることの大切さを知った今なら言えます。いつも私と仲良くしてくれて、ありがとう。いつも塾の送り迎えをしてくれてありがとう。仕事で疲れているのに、おいしいご飯を作ってくれてありがとう。頑張っている部活を応援してくれてありがとう。いつも当たり前だと感じていたことが、実は当たり前ではなかったと知ると、感謝の気持ちがこみ上げてきます。「ありがとう」の力は無限大です。この言葉を言うことで、未来が明るくなると私は信じています。だからこそ、私は何度でも言います。心を込めて「ありがとう。」





# 『三角座りについて』



市立守山中学校 3年

植木 帆 稀

さて、あなたは正しい姿勢と聞いて思いあたる姿はあるだろうか。例えば……三角座り。体育座りとも言われるこの座り方は、私が小学生のころ、体育の時間や学年集会でさせられていたもの。つまり、私たちの日常に深くかかわっていたものだと言えるだろう。

そんな三角座りだが、実は奴隷座りとも言われている。海外では、この座り方はとても屈辱的であるとされている。別に私たち生徒が校長先生や他の先生たちの奴隷だったと言いたいわけではないので、そこは分かってほしい。話がそれてしまったが、三角座りはなぜ奴隷座りと言われているのだろうか。実は、三角座りは、座っているだけで身体に負担がかかってしまう座り方だ。背中が丸まってしまうため、姿勢は悪くなり、腰痛に悩まされる。そして、呼吸もしにくくなるという。なぜ、このような座り方が義務教育でさせられていたのだろうか。一説によると、戦後、アメリカなどの戦勝国が、日本人を弱体化させるために、GHQ……マッカーサーで有名なあの機関が取り入れたそう。ちなみにこれはあくまで都市伝説である。私は、この都市伝説を信じて三角座りを批判しようとしているのではない。もっと簡単に考えてみてほしい。三角座りで過ごしていると、しんどくなるのは私だけではないだろう。先生の話が始まる前に、「正しい姿勢をしてください」と言われて、一斉に全員が背筋をのばすのがいつもの風景だった。しんどくなるということは、それは身体に負担がかかっているということになる。しんどいなかで先生の話を中心して聞くことは、果たしてできるのだろうか。私は、できないと思う。そしてそもそも、三角座りというのは、姿勢が悪くなる座り方だ。その座り方で、「正しい姿勢をしろ」というのは、矛盾が生じているように思う。三角座り自体、正しい姿勢ではないのだから。

では、正しい姿勢とは一体何なのだろうか。例えば、正座。正座は足がしびれることを除いては、良い座り方であると言える。背筋がのび、呼吸がしやすいからだ。三角座りでのデメリットが全て解決された座り方だ。そして、あぐら。イメージは悪いが、実は、もともとは精神統一や集中するのに使われる座り方だ。そのため、本当は正しい姿勢である。時間が流れていく中で、三角座りとあぐらのイメージが変化していったのではないかと思う。三角座りは正しい姿勢で、あぐらは正しくない姿勢だと、どこかの機関にすり込まれたのかもしれない。私は、まず、今持っている三角座りとあぐらのイメージを変えていく必要があると考えている。

これらのことから、三角座りというのは、人が人にイメージを植えつけた結果、習慣化されてしまったことだと言える。そんな三角座りだが、今は学校で絶対にしなければならない、というふうにはなっていない。しかし、無意識的に三角座りをしている人はたくさんいる。これが、幼いころからされてきた、イメージの植えつけによるものだということ。あなたは今知っただろう。イメージの植えつけというのは、言い換えれば「偏見」だ。偏見と聞けば、それはいけないことだと思うだろう。私たちの暮らしでは、そんな偏見が作り出したものにあふれている。私も、誰かにイメージの植えつけをしているかもしれない。あなたも誰かに、イメージの植えつけをしていないだろうか。「自分は間違っていない。だってみんなそうしてるし。」なんて理由で、その考えを誰かに植えつけていないだろうか。そんなあなたも、実は、イメージを植えつけられた内の一人なのだ、気づいてほしい。今、ここで。

# 講 評

## 審査員長

守山市教育委員会 教育長 辻本 長一

皆さんの発表から勉強をさせていただき、素晴らしいひとときでした。

この意見発表の取り組みに関して、全ての中学生がそれぞれの学校で日頃感じていることを書き綴るといふ経験をしています。いろんな社会問題に目を向け、家族との触れ合い、友達とのやり取りを通してどうあるべきなのか、自分なりの考えをまとめていて、素晴らしい経験と内容に私自身も「そうなのか」と驚かされました。

守山市は、青少年赤十字（JRC）発祥の地といわれ、その態度目標が「気づき、考え、実行する」です。身近な地域の問題や行事、社会的な問題、歴史、また家族や友達とのやり取りを通して「これってどうなんだろう？」と立ち止まりいろいろなことに気づき、そこに目を向けて書き綴っています。学校の勉強でも問題意識を持つことが出発点になっているように、文書の書き始めもその時に気づいたこと、家族から言われたときの言葉、自分が思ったこと、その時の状況を思い出して書き出し、皆さんに問題、疑問を投げかけながら発表されていたことは素晴らしいと思います。

文章を書くとき「起承転結」とか「序論、本論、結論」と構成を考えて書きます。「起承転結」は難しいかもしれませんが、皆さんの発表は「序論、本論、結論」の序論で問題提起の仕方が非常にうまいなと思いました。上手に問題を投げかけ、その時の言葉を引き出し皆さんに訴えかけていたことは素晴らしいと思います。

そして本論で、本当に深く掘り下げて発表されていると思います。自分が思ったことをさらに調べ、家族や友達から言われたことを自分なりに分析して「こう思います」とか「こうです」という柱立てをして発表をしていたと思います。このあたりが説得力を高める一つのコツだと思います。さらにいろんなことを調べ、多面的に深く掘り下げていくと説得力が増すと思いました。

そして結論では、序論で最初に投げかけたことに対して、もっと深く考え、これからの自分の生き方と関連付けて幅を広げてまとめることができるとさらに良いと思います。また、結論で広げていくことで、それを実際実行するとなると非常に難しいことですが、そこをしっかりと着実に実行していくためには、どうすればいいのか。そのことについても少し向き合って結論で述べると、さらに説得力も増し素晴らしい弁論になると思います。今後、気をつけて発表してほしいと思いました。

最後に、発表をするとき、原稿をすべて覚える必要はありませんが、基本はしっかりと相手（観客）を見て伝えることが必要だと思います。そして、問題提起をした後にしっかりと間を置いて周りを見て、また原稿を見てしっかりと相手（観客）を見て発表をすると相手（観客）に考えが伝わっていくと思いました。

皆さん、素晴らしい発表でした。発表された皆さんは自信を持ってほしいと思います。ありがとうございました。

## 審査員 (順不同)

審査員長	辻本 長一	守山市教育委員会教育長
審査員	竹中 弘	近江守山ライオンズクラブ会長
審査員	樋口 直彦	守山市 PTA 連絡協議会代表
審査員	里内 緑	守山市教育委員会教育委員
審査員	木村 仁	元小中学校長 (国語科)
審査員	藤澤三千代	元小学校長
審査員	山本 繁二	守山市青少年育成市民会議会長

## 審査基準

### 1 内 容

- ・中学生らしい新鮮な発表であるか。
- ・自らの意見、希望など、主旨がはっきりしているか。
- ・発表内容が個人の体験にとどまらず、一般性、社会性があるか。
- ・論旨が一貫しているか。

### 2 説 得 力

- ・発表の内容が共感と感動を与えるか。
- ・思いや考えに納得・賛同できるものであるか。
- ・体験や経験で学んだことを、自分の生活に活かそうとしているか。

### 3 発表態度

- ・読み上げるだけでなく、相手に伝えようとしている。
- ・自分の思いを表現するための工夫をしている。
- ・声、言葉は明瞭で聞きやすいか。
- ・話しぶりに、熱意と迫力があるか。

## 審査決定

滋賀県青少年育成県民会議主催「中学生広場「私の思い 2025」県広場へ推薦する作品の選考も兼ねています。

優秀賞 6名 (各学校より 1名) 優良賞 12名

優秀賞作品から最優秀賞 2作品を決定し、本市代表として県広場へ推薦します。

## 中学生広場実行委員

役 職	氏 名	ふりがな	学 校	学年
実行委員長	陳 成悦	(ちん なりよし)	立命館守山中学校	3年
副実行委員長	高谷 柚	(たかや ゆず)	守山北中学校	2年
実行委員	高橋 綾	(たかはし あや)	守山南中学校	2年
実行委員	島内 花菜	(しまうち かな)	守山南中学校	2年
実行委員	長尾 凌生	(ながお りお)	明富中学校	3年
実行委員	竹内 結生	(たけうち ゆい)	明富中学校	2年
実行委員	小濱 志織	(おばま しおり)	県立守山中学校	2年
実行委員	東倉ことね	(とうくら ことね)	県立守山中学校	1年
実行委員	松本 陽向	(まつもと ひなた)	県立守山中学校	1年
実行委員	上之藪香帆	(うえのその かほ)	立命館守山中学校	3年
実行委員	山本まおり	(やまもと まおり)	市立守山中学校	3年
実行委員	南川絢榎李	(みなみかわ あかり)	市立守山中学校	3年
審査員	吉見 玲伽	(よしみ れいか)	市立守山中学校	3年
審査員	瀬尾 柊哉	(せお しゅうや)	守山北中学校	3年
審査員	大橋 将史	(おおはし まさし)	明富中学校	3年
審査員	西川 千尋	(にしかわ ちひろ)	立命館守山中学校	3年
審査員	灰谷 歩実	(はいたに ふみの)	県立守山中学校	2年
審査員	中井友里菜	(なかい ゆりな)	守山南中学校	2年



## 第28回中学生広場「私の思い2025」守山大会 実行委員感想

### 実行委員をして《感想》

- 受付など今までしたことがなかったので、とても貴重な経験をしたと思います。また、私の担当が審査員だったのですが、全くしたことがなかったので、違う学校の方と話し合いもし、とても良い経験をになりました。
- 最初は、しっかりと実行委員の仕事ができるのか不安でしたが、いざ始まると実行委員のメンバーの人たちは皆優しく、本番では楽しみながら頑張ろうという気持ちで活動に臨むことが出来ました。そして、普段学校では経験することができない活動ができたことを嬉しく思います。やりがいもあり、自分自身の成長に繋がったように感じました。
- 楽しかった。とてもいい経験になった。
- 発表者の意見にはそれぞれ共感するものがあって、実行委員として聞けて良かったと思う。また、他校の人と交流し、会話ができて良かったと思う。来年度もやりたい。
- 実行委員全員で力を合わせて「私の思い2025」をより良いものにできたと思う。
- 他校の人と一緒に大会を作り上げることが出来て良かったです。活動発表者への謝辞の役割を通して、人前で考えたことを伝える貴重な経験になりました。市内6校の繋がりを感ぜられました。

### 来年度の実行委員の皆さんへ

- 緊張してしまうところもあると思いますが、最後までがんばると「やって良かった」ときっと思えるので頑張ってください！
- 他校の生徒とも交流ができ、必ず実行委員として活動ができて良かったと思えるはずです。ぜひ、楽しんで活動してください！
- 準備の時間は長いけれど、大会当日、他者の発表のお手伝いをしたり、賞状を渡したりする仕事があって、どの役もとてもやりがいがあるものだと思います。どの役になっても、ぜひ一生懸命になって楽しんでください。
- 裏の仕事が多いですが、達成感が得られます。
- リハーサル、当日の2日間の繋がりを大切にして、実行委員をして良かったと思える大会を作り上げてください。楽しく、貴重な経験になると思います。



## 第 28 回中学生広場「私の思い 2025」守山大会 アンケート結果

### 《意見発表について》

- 今の純粋な疑問・率直な意見を持ったまま、心のきれいな大人に成長してくれることを願っています。大人になると子どもの頃に感じていたことを忘れていってしまうので、忘れないように心に刻んで生きていてもらいたいです。良い話をきかせてくれてありがとう。
- 自分の思いを言葉にしたり、文章にすることは難しいことだと大人になった今でも日々感じています。皆さんの発表は、どれも素晴らしいものでした。
- 中学生ならではの視点でハッとさせられることがたくさんありました。
- 中学生の思いや発想に驚かされました。また、今日の意見発表に向けて一所懸命、練習してきたのがすごく伝わりました。
- とても言葉づかいを大切に思われていることがよく分かりました。お互い思いやりをもって話し合いたいものです。
- 原稿を一切見ず、観客を見て発表していて良かったです。堂々とした姿が印象的でした。
- 全ての発表がとても良かったです。一人ひとり自分の意見や考えを自分の言葉で、なおかつ、皆に分かりやすく伝える。とても難しいことだと思いますが、堂々と落ち着いて発表されており感動しました。
- ジェスチャーを入れて、その時の様子が想像できるように素晴らしい発表でした。
- 多感な中学生の生の声が聞いて良かったです。
- よく考えているなと感心しました。発表して下さった気持ちを大事に、これからも頑張ってください。
- 「無駄なこと」や「身近なことにいadak思い」、実体験、自分の名前など、聞いている側にも自分ごととして聞くことができ、私たちも学ぶことができました。これらの思いがもっと広く伝わりますように。
- 入試をゲームにたとえたり、人生をゲームにたとえる発想が楽しく素晴らしい。
- 自分の将来、目標、体験、身の回りの事、興味など思いを言葉で伝える事は難しい。自分を成長させるためにも多くのことを学び体験してほしい。
- 皆さん、自分の考えをしっかり持っておられて頼もしく思います。
- 身近な等身大の思いが私に響きました。
- 自分の意見をしっかりとまとめて発表されている様子に感動しました。今後の活躍を期待します。
- 皆さん、常々いろいろ考えて人生を送っていることに感心しました。
- 大きな舞台での発表に不安もあったと思いますが、とても心地よい話の速度で、それぞれの思いが伝わっていたように思います。
- 皆さん、本当に自分のテーマにそって思いや訴え、また、詳しく調べたり素晴らしかったです。貴重な体験が今後の糧に絶対になります。“思い”を聞かせてもらってありがとうございました。
- 皆さん（18名の方々）、とても堂々としていて感心しました。更に向上心を持ち頑張ってください。
- 人生の指針になるような話がたくさんあり、日々の生活に生かしていこうと思った。どの話も興味深かったです。
- 自分の思い、考えを文章にまとめる力、それを大勢の人の前で発表する力、18名の発表者の方全員とても素晴らしかったです。
- 今の気持ちを長く持ち続け、また、広く拡大していけるよう努力を続けてほしいと思います。
- 皆さんの考えや気持ちが聞いて良かったです。これからも、いろいろな機会での自分の思いや気持ちを自分ができる方法で伝えていってください。
- 自分の思いや感じたことが詳しく書かれていて分かりやすかった。自分の思いをこれからも伝えていってください。
- 毎年、楽しみに聞かせていただき、年を重ねている私も多くのことを学ばせていただいています。今年もよい発表ばかりでした。
- これからの農業は、生産コストを下げ、生産性を高める必要があるかと思います。
- このような大きな会場で自分の思いを堂々と述べる中学生の皆さんに圧倒されました。
- 発表者の皆さんの声が聞き取りやすくて、とても良かったです。実体験を詳しく話している発表は、心に残りやすいと思いました。

### 《実行委員について》

- 入場する前からこやかな笑顔で迎えて頂いて、とても爽やかな気持ちになれました。学年、地域を超えてのイベントの活動で大変だったと思いますが、素晴らしいイベントにして頂いてありがとうございました。
- いつも、しっかり役割を分担して進行されていて素晴らしいと思います。
- 部活や勉強等で忙しい中、お疲れさまでした。校外での活動は貴重な良い経験になったと思います。
- 大きな会場でスムーズな進行・運営は大変だった

と思います。お疲れさまでした。

- 勉強や部活に忙しい中、この活動はこれからの人生に大きな経験となって残ると思います。
- 他校との交流になり、互いに協力している様子が見え素晴らしいことです。
- 実行委員長、素晴らしいリーダーシップをとって開催していただきありがとうございました。高校やその後の社会で生かしてください。
- 司会、写真の記録など多くの立場で活躍していて頼もしいと思いました。
- これを機に、是非これからも地域との関わりを増やし、広い仲間づくりをしてほしいです。
- 何をやるにもリーダーが必要です。誰もができるわけではないし、また大変ですが、実行委員の方は、これからも皆を引っ張り、まとめて頑張ってください。
- 緊張しながらも役割を果たされていました。
- 最近、地域を支え活動しているのは高齢者が多いので、今の体験をきっかけに地域でも力を生かしてほしい。
- 企画力、実行力に敬服するのみでした。今後とも後輩に引き継いで更に発展、充実させてください。
- 大人ではなく、中学生のあなたたちが中心となって行うことに、とても意味があると思います。
- それぞれの役割を精一杯果たしている姿は、大変素晴らしく市内中学生の活気を感じました。
- ホール内での姿が、皆さん正々堂々と大変清々しく、誇らしげな顔が素敵でした。
- 今日の経験は、よい経験になると思います。
- 大会を開催することは大変だと思いますが、いろいろな人と協働しあう体験ができたと思います。
- 守山市内の6中学校の繋がりを、いろんなチャンネルで強化していきましょう。

### 《全体について》

- 中学生の活動や思いを知るよい機会だと思います。また、参加したいと思います。
- 私の思いを書くに至って、自分を見つめ直したり、周りの人たちがどんな風に考えているのかについて知るよい機会だと思います。皆の視野が広がったら良いと思います。

- 初めて参加させていただきましたが、中学生の思いを聞かせていただき貴重な経験となりました。
- とても勉強になり、新しいことに気がつける機会をありがとうございます。いろいろなことを考えさせられました。
- すごくいい活動だと思います。ただ、私も初めて中学生広場というものを知りました。もっと広めていけばいいと思います。
- それぞれ個々の想っている様々な意見を発表できる素晴らしい大会だと思います。皆さん、それぞれがしっかりと意見を持ち、大変感心しました。
- 市内中学生の交流の場として続けてほしいと思います。
- 手話の方が一緒に発表の場にいらっしやるのが新鮮に思いました。
- 思いを文字にしてみる、発表する、とてもいい機会だと思います。中学生の皆さんが今何を思っているのか、聞かせてもらえてとても良かったです。
- 毎年、中学生の頑張っている姿を見て、77歳のじいじとして自生活の孫への接し方に参考となった。
- 将来の子どもたちのために、この良き事を多くの方で応援したいです。
- もっと盛り上がれば良いと思うし、このような思いが広く伝わればよいと思いました。
- 発表の場は、とても大切なことと思う。ずっと続くと良いと思う。
- 初めて聴かせてもらいました。中学生の皆さんが自立・自発的に活動されていることを知り、うれしいです。
- 1年から3年生までどの意見発表も素晴らしく、3年間の成長が感じられるが時間的に少し長いとも感じる。
- 初めて拝聴しました。中学生の代表の皆さんの各々のテーマにそった意見や思いを聞いて新鮮な気持ちを持てた時間でした。もっと多くの方々に、この場で聞いてほしいと思いました。
- 若い力の素晴らしさを感じた。今後の活躍を期待します。
- いろいろな考えを持つ中学生がいる事が分かりました。考えることのできる人が集まる守山の未来は明るいと思います。

## 第28回中学生広場「私の思い2025」守山大会 作文募集要項

- 1 趣 旨 中学生広場「私の思い2025」守山大会は、人格を形成するうえで重要な時期にある中学生が、日常生活や体験を通して感じていること、考えていること、将来の夢などを広く社会に訴えることにより、青少年自身が社会の一員として自覚するとともに、青少年の思いや意見を共有し、青少年の育成に理解を深め、市民の協力を求める契機とします。  
また、大きな夢を語ることの少なくなった現代社会において、未来を築く青少年が自らその役割と責任を自覚し、地域とのふれあいや人間の生き方を見つめるとともに、日常感じていることを主張、発表するための作文を募集します。
- 2 主 催 守山市青少年育成市民会議・近江守山ライオンズクラブ・守山市PTA連絡協議会
- 3 後 援 守山市・守山市教育委員会
- 4 協 力 守山市小中学校教育研究会
- 5 応募資格 守山市内中学校に在学する中学生  
各中学校は、各学年より1編の作品を選考し、別紙報告用紙を提出してください。
- 6 作文内容 日頃考えていることや感じていることをまとめたもの。  
○家庭、学校生活、社会および身の回りや友だちとのかかわりなど  
○社会や世界に向けての意見、未来への希望や提言など
- 7 作文書き方 (1) 応募作文は、自作、未発表のもの。特別の事情のない限り自筆。  
(2) 作文は400字詰め原稿用紙(A4、縦書き)4枚以内  
1行目「題名」2行目「学校名」「学年」3行目「名前(ふりがな)」を明記する。  
(3) 原稿は、HBまたはBの鉛筆で濃く書くこと。(審査のときにコピーをとります。)
- 8 作文締切 (1)意見発表者名簿提出 令和7年6月13日(金)  
(2)発表者作文原稿提出 令和7年6月19日(木)必着厳守
- 9 作文の送付先 〒524-8585 守山市吉身二丁目5-22  
守山市青少年育成市民会議事務局(守山市教育委員会事務局社会教育・文化振興課内)
- 10 審 査  
7月12日(土)「私の思い2025」守山大会において意見発表を行い、青少年育成市民会議から委嘱された審査員が審査します。審査基準は、別紙のとおりです。
- 11 表 彰  
優秀賞6名(各学校より1名)、優良賞12名を決定します。  
なお、本大会は、「私の思い2025」県広場(令和7年8月23日(土)高島市立藤樹の里文化芸術会館開催予定)に推薦する作品の選考も兼ねているため、優秀賞作品から最優秀賞2点を決定し、本市代表として推薦します。  
入賞者には賞状および記念品を贈ります。
- 12 その他  
・大会の発表時間は一人5分以内とする(厳守)  
・応募作品は、返却しません。また、作品の著作権は主催者に属し、広報および青少年育成啓発資料として活用する場合があります。  
・中学生広場守山大会の意見作文は、冊子として各関係機関、団体等に配布します。



近江守山ライオンズクラブ



【青少年育成市民会議のシンボルマーク】

守山市青少年育成市民会議



守山市PTA連絡協議会

第 28 回中学生広場  
「私の思い 2025」  
守山大会の記録  
発行 令和 7 年 12 月  
編集・発行  
守山市青少年育成市民会議



# 第28回中学生広場「私の思い2025」守山大会

- ・主催 守山市青少年育成市民会議、近江守山ライオンズクラブ、守山市PTA連絡協議会
- ・後援 守山市、守山市教育委員会 協力 守山市小中学校教育研究会



中学生実行委員